

大腸癌研究会プロジェクト
『若年者大腸癌の全国データベース構築と臨床病理学的特徴および
治療効果の検討』

第 6 回会議 議事録

2026 年 7 月 2 日

広島コンベンションホール 第 1 会場（2F メインホール 2A/2B）およびオンライン

■出席者（敬称略）

- 事務局 がん研有明病院消化器化学療法科：篠崎英司、日本医科大学消化器肝臓内科：秋元直彦、日本医科大学消化器外科：横山康行
- 出席施設研究責任者（50 音順）：
石丸啓(愛媛大学)、植村守(大阪大学)、江本成伸(東京大学)、遠藤俊吾(福島県立医大会津医療センター)、大沼忍(東北大学)、小澤真由美(横浜市立大学附属市民総合医療センター)、母里淑子(埼玉医科大学総合医療センター)、五井孝憲(福井大学)、小杉千弘(帝京大学ちば総合医療センター)、小森康司(愛知県がんセンター)、佐村博範(浦添総合病院)、島田能史(新潟大学)、杉本起一(順天堂大学医学部附属順天堂医院)、須藤剛(山形県立中央病院)、須並英二(杏林大学)、虫明寛行(済生会横浜市南部病院)、竹下恵美子(獨協医科大学埼玉医療センター)、問山裕二(三重大学)、廣川高久(刈谷豊田総合病院)、深澤貴子(磐田市立総合病院)、藤田文彦(久留米大学)、松橋延壽(岐阜大学)、水島恒和(獨協医科大学病院)、三宅亨(滋賀医科大学)、山田真善(国立がん研究センター中央病院)、山岸茂(藤沢市民病院)、山本聖一郎(東海大学)
- オブザーバー：現地参加 46 名+オンライン 11 名

■会議内容

プロジェクト研究の現状に関して

篠崎先生から

- プロジェクト研究の進捗状況を説明。
 - 症例集積状況
3782 例（データが不十分な症例等を除外）
遺伝性腫瘍 109 例、IBD 関連癌 54 例を除外し、本研究の主ターゲットである散发性大腸癌症例は 3619 例
- 暫定解析結果
若年発症（35 歳未満）と非若年（35 歳以上）の大腸がん症例を比較し、臨床病理学的特徴と予後（OS/RFS）への年齢の影響を評価。
解析手法・対象
 - 対象症例は 3,782 例、35 歳未満と 35 歳以上で比較。
 - 病期はステージ I～IV を包含。

- 群間差調整のため傾向スコアマッチング（PSM）を実施。
- 主要評価項目：
 - 全生存期間（OS）
 - 無再発生存（RFS）
- サブグループ解析：
 - 分子サブタイプとして MSS/MSI 群を層別
 - 病期ステージ I～III に限定した解析も実施

主な結果

- 臨床病理学的特徴（若年群の特徴）：
 - 診断時病期が高い（ステージ IV での発見が相対的に多い）
 - 低分化、粘液癌の割合が高い傾向
 - 予後解析（全体集団）：
 - マッチング前後で OS/RFS の差は調整され、年齢（若年発症）そのものは全体として独立した不良予後因子とはならず
 - サブグループ解析の示唆：
 - MSS 群かつステージ I～III に限定すると、若年発症で予後が不良となる傾向が確認
 - 総括：
 - 若年発症大腸がんは、より攻撃的な臨床病理学的特徴を示す一方、全体では年齢単独の予後因子とはならなかった
 - MSS・早期～局所進行（ステージ I～III）では若年発症が不良予後に関連する可能性
- ### 考察
- MSS ステージ I～III の若年発症患者では、標準治療に加えた集中的なサーベイランスやリスク層別に基づく治療最適化の検討が望ましい
 - 年齢は患者集団全体での単独予後因子ではないため、臨床病理学的因子と分子サブタイプを踏まえた包括的リスク評価が必要

■ 今後に関して

- 副次研究テーマ募集：
 - CRF を提出された参加ご施設の先生方から幅広く副次研究テーマを募集
 - 登録症例数等を参考にしつつ、基本は提案受付順で検討を進行
- 20 代症例のゲノミクス共同研究：
 - 20 代患者 139 例を対象としたゲノミクス解析を他部門と共同で計画
 - ⇒20 代患者さんを登録いただいた御施設からは、ブロックをお借りする必要がありますので、ブロックの貸し出しが可能なご施設はご協力お願いいたします。以下、20 代の症例をご登録いただいたご施設；
愛知がんセンター、愛媛大学、東京大学医科学研究所、横浜市民総合医療センター、福島県立医大愛知医療センター、関西医科大学、がん研究会有明病院、岐阜大学、久留米大学、九州大学、熊本大学、広島大学、香川大学、済生会横浜市南部病院、埼玉医科大学総合医療センター、三重大学、山形県立中央病院、

山梨大学、新潟大学、大阪大学、獨協医科大学埼玉医療センター、日本医科大学武蔵小杉病院、防衛医科大学校、杏林大学、刈谷豊田総合病院、産業医科大学、滋賀医科大学、聖マリアンナ医科大学、都立駒込病院、東京大学、東邦大学大森病院、藤田医科大学、日本医科大学

- 科研費の申請に関して：
 - 本プロジェクト研究のデータベースを用いた科研費申請を推奨
- 検体・データ連携：
 - 今後、参加ご施設から FFPE を収集し、連携施設で解析後、必要に応じて解析用 DNA の提供に対応予定

■ 次回、プロジェクトミーティング

- 次回の 2028 年 1 月開催予定の第 106 回大腸癌研究会時に予定

以上
(文責：秋元、横山)